

災害廃木材の 燃料利用に壁

日本プロジェクト産業協
議会(JAPIC)の森林再
生事業化研究会は先月22
日、東日本大震災に関する
災害廃棄物対策を議論する
「木材回収に関わる技術検
討会を開催。その検討結果
を基に、同27日に被災自治
体などに緊急技術提言を行
った。現在、被災地では災
害廃木材のチップ化が進め
られているが、含有する塩

分などにより引き取り先の
確保や安全な保管に支障を
来す可能性を指摘してお
り、廃木材のままでの貯蔵
の必要性も示唆している。
提言では、「木廃材を資

JAPICが緊急提言

含有塩分 ネックに 安易なチップ化懸念

源として活用するに当たっ
ては、処理を行う側と受け
入れる側との間で、木廃材
の形状や塩分など不純物の
問題についてよく調整を
行った上で処理方法を決定
すべき」としている。これ
まで、震災による廃木材な
どは現地でチップ化されて
きたが、今回は津波による
塩分など不純物があるた
め、効率的な輸送が可能な
用することはできる。一
方、基準の厳しい木質ペレ
ットや、塩素濃度0.1%
以下とされているものが多
い木質バイオマス発電、石
炭混焼発電ではそのままで
の利用は難しく、塩素除去
処理が必要となる。なお、
技術検討会に参加した事業
者(木質発電、石炭混焼、
木質ボイラー、木質ボルト
など)も引き取りは難しい
としている。

研究会の主旨を務める米
田雅子慶應義塾大学特任教
授は「大量のチップの塩分
を除去する技術は、現在確
立されていない。JAPICに、チ
ップにしてしまうと寿命が
短く、腐敗や発火の可能性
もある」と指摘。その上で、
「廃木材のまま貯蔵し、ト
タルで100ミ以上の雨に
あてるなど除塩をすれば有
価物となる。有価物となれ
ば、被災市町村の収入にも
つながる」との見解を示し
ている。